

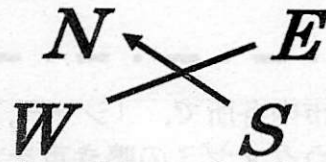
藤沢

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット

2011年9月1日

第208号



- 主 事
- ・原発問題で市民へアンケート実施
 - ・市長に原発関係の要望
 - ・武田裁判判決
 - ・「放射線測定」「放射能基礎知識」学習会
 - ・クマゼミ ただいま 北進中

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/

事務局 〒252-0816 藤沢市遠藤 849-9 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp

早急に脱原発への筋道を ～パレードに参加しよう～

3/11、膨れ上がった経済至上主義が爆発した瞬間だった。

危ないものは見えないように蓋をし、経済発展を追及して、この国の自然も文化も 絆もないがしろにして、そしてものが捨てるほど有り余っているこの国が爆発した瞬間だった。僕はあの瞬間、はっきりと「世界が変わる」ことを確信した。

これまで経済至上主義の犠牲になってきた人たちがその弊害と行き詰まりに気づき、本当の豊かさを求め始めるだろう。社会構造のおかしさに声を上げていこう。そしてその声は政治を押し上げ、経済界を突き動かし、この国から本当の自由と平和が広がっていくだろうと。

しかしあれから半年、いまだにプロパガンダはマスコミを使ってぼろぼろになった安全神話を繕っては国民をだまし続けている。「海外への原発輸出を容認し、成長産業として引き続き国がバックアップする」と馬淵澄夫前国交相(7月24日ブログ)。「世界一の安全基準」がぶっ飛んだというのに、いまだに原発推進路線の政府。事故処理も除染も、そして震災の復興をも経済成長のネタにしてしまうこの国は、いつまで市場原理を突き進んでいくのか。原発はこれまでは私たちの知らない原子村の人間が、目先の利権だけを追求してマスコミ・教育を使って安全神話を作り上げ、事故隠蔽を繰り返してきた。

そして311、その事実が放射能と共に広く拡散した、はず。

まずは原発利権が成り立たない構造に、今こそ「容認しない」市民の声を集めるときだ。そのために今必要なのは、分断されてきた地域での繋がりを再構築していくこと。そして食べ物も政治も経済もマスメディアもそしてエネルギーも、地域自給・地域自立こそが本当の豊かさに繋がっていくのではないだろうか。

今、大人はそこに向かっていく筋道を早急に切り開いていく必要があるのではないだろうか。

そしてその生き方を子供達に見せることも。震災から半年、同時多発テロから10年目の9/11、

「脱原発」「エネルギーシフト」をテーマに奥田公園から遊行寺までパレードをします。

受信型の講演会などと違ってパレードへの参加となると、「興味があるけどハードルが高い」という方も多い。だからこそ自らが参加し、そして一緒に参加＝行動する人を増やすことで、日和見依存型からポジティブ発信型に自らを変化させていくきっかけを作ります。そして組織動員型のデモではなく、市民自発参加型のパレードを目指します。

ぜひ、いっしょに歩きましょう。 No Nukes One Love

(古屋ケンゴ)



石川丸山谷戸のアライグマ

(赤外線カメラで撮影)

クマゼミ ただいま 北進中

今夏も藤沢市内各所で、「シャー、シャー、シャー」というクマゼミの鳴き声をたくさん聞きました。

日本におけるクマゼミの分布は、太平洋側では、これまで大磯・城ヶ島を結ぶ西側といわれ、大磯・城ヶ島が北限といわれてきました。

セミの分布の確実な証拠はぬけがらの発見です。成虫は発生地から離れた地域でも鳴き声を聞くことがあり決定打になりません。

昨年、8月に辻堂海浜公園内で130個体近いクマゼミのぬけがらと成虫を見つけ(8/11 神奈川新聞)、その後、8月末までに見つかったぬけがらは200個体を越えました。

今年になってどの様になるのか注目されていました。

冬の調査では、辻堂海浜公園内でクマゼミの産卵痕が見つかり、2年前にはここで産卵されていたことが明らかになりました。

そこで藤沢クマゼミ調査研究会が発足しました(代表大谷房江)。

今年のクマゼミの発生はそろそろ終わりに近づいています。8月26日までの調査で見つかったぬけがらはオス456個体、メス458個体、判別不能8個体、合計922個体で、昨年の200個体を大きく上回りました。

見つかったぬけがらはすべて辻堂海浜公園内でした。周辺の辻堂浄化センターや汐見台公園などを調べましたがクマゼミの鳴き声は聞かれるのですが、ぬけがらは見つかりませんでした。

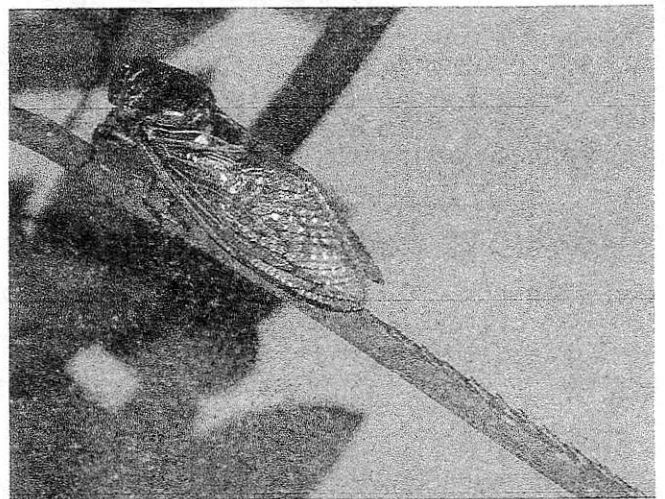
また、鵠沼運動公園と片瀬山公園も調べましたがぬけがらは見つかりませんでした。

さらに、さまざまな方々から藤が岡御幣山公園や善行の県立教育センター内でもクマゼミのぬけがらを見たという話を聞いて探してみましたが見つかりませんでした。

そして、今年の調査でクマゼミの産卵シーンの撮影に成功したことは特筆すべき事でした。

多数のクマゼミのぬけがらが見つかり、一挙に5倍に増えていることで、藤沢が日本の太平洋岸側におけるクマゼミ分布の最前線に位置していることが確実になりました。

このことは、生物の進化・適応の現場にすることであり、これは研究や環境教育に役立てる滅多にない機会に恵まれているといえます。



(クマゼミの産卵痕：右下のささくれ)

来る10月11日(月)～16日(日)に「総合ミュージアムをつくろう展」が藤沢市民ギャラリー(JR 藤沢駅藤沢ルミネプラザ6F)で行われます。

そこで、藤沢の自然「過去・現在」のテーマでナウマンゾウとクマゼミの標本が展示されます。

藤沢産のナウマンゾウ化石発掘現場写真及びクマゼミなど藤沢産のセミのぬけがら標本(クマゼミの産卵シーンの映像)と鳥の巣を紹介します。

(藤沢クマゼミ調査研究会大谷房江・宮地俊作)

計ってみたい！ 放射能汚染度

暑い8月18日でしたが藤沢エコネットでは、市内の放射線汚染から子どもを被ばくさせたくないとの声が大きかったので、放射線計測器を使って測ってみようとの声が広がり〈千代田テクノル、アロカ〉の技術者の安部さんに来ていただき計測器の使い方講習会を開きました。

計器についての基本的なことを話された後、実際に計ってみました。地上1cm、50cm、1mと計り計測値は0.04-0.07 μ Sv/h（マイクロシーベルト）とあまり高い数値ではなく安心しましたが、植え込みの中などは高く出ました。

また室内は0.05 μ Sv/hでした。

計器を扱うには、6時間の講習を受けた方が良いでしょう。バックグラウンドの数値をたしかめておくこと、計量するときにはすぐには数値が安定せず、誤差が出るのでできるだけ時間をかけ（時定値という）同じ場所で複数回測り平均値を出すこと。数種の計測器で測るには、基準を設けることなどの注意事項が必要ということでした。

計器メーカーは全国で5～6社、空気中に放射性物質があるかないかの物、どれだけあるのかの物、外部被ばく用、内部被ばく用、食品用など様々です。費用も10万円～数百万～数千万円と様々です。正確に測るには、サーベイメーター（50万円ほど）が必用だが、生産も間に合わず注文しても4ヶ月先になるとのことです。



藤公園で計測

〈藤沢エコネットニュース208号〉

すっきり！ 放射能の基礎知識

8月4と20日に放射能の基礎知識を学びました。

講師は原子力に詳しい渡辺博明さん（藤沢エコネット会員）で、大学時代の同級生は畑村氏（事故調査委員長）がいます。原子力発電の原理と事故の説明、なぜ原発事故が起きたかを学びました。

チェルノブイリ事故との比較、汚染物質の量は膨大な規模、原子炉の破損の経過説明は不十分であったこと、汚染の拡散や移動にホットスポットなどバラツキがあり、事故は電源喪失や安全神話による人為的ミスによって起こった。

原子力とは＝中性子によるウラン235の核分裂によって、核分裂反応の莫大なエネルギーと200種類以上の放射性物質（核種）が生まれ基本的しくみは原爆も原発も同じである。核分裂のパターンは決まっています。ピークの高いのはセシウムとストロンチウムである（グラフで説明）。

100万kWhの原子力発電所1基では1日で1kgのウラン235を消費する。これは広島に落ちた原爆の1発分のエネルギーを発生し、放射能汚染物質を生成に相当する。即ち、原発1基は1年間で約400kgのウラン235を燃やし、広島原爆の400倍の「死の灰」を発生させている。事故ではこの10%が放出された。

1日1kgのウラン235の消費は、火力発電では良質石炭で3000tの燃料と、それに伴う炭酸ガス、水蒸気、残さ灰が発生するが「死の灰」は生成しない。

放射線と放射崩壊の例では、ウラン235の場合、セシウム137→ β 線、 γ 線を30年間出し→バリウムとなって安定する。ヨウ素131は→ β 線8日、 γ 線を12日間出し→キセノンとなって安定する（かなり難しい!!）

今まで聞くことが出来なかったことなどを質問形式で、どんどん出し合っの学習、原発はエネルギーがどのようにでるのかなどを学びました。

最後は、これから藤沢で問題になる核種はセシウムで β 線と γ 線を測る必用がある。とにかくデータ（モニタリング）を採ることが大切、内部被ばくが心配ですが、継続的に測ることが大事、どう代謝されたかなどを調べることが必用ですと述べました。（日比遥）

原発問題 市民公開アンケート結果

(※回答は はい→○ いいえ→× 分からない→△で表示)

原発問題市民アンケート集計 (回答者82名)			総数に 対する ○の割 合%	総数に 対する ×の割 合%	総数に 対する △の割 合%	無回答 の割 合%	井上 祐介 市議 回答 (注①)
質 問							
1	東電と国は正確な情報を速やか情報開示すべきか		99	1	0	0	○
2	政治家は法律を作るべきか		85	2	9	4	○
3	放射能の影響、藤沢市内も心配か		96	2	1	0	○
4	市内の食品・農産物の測定を公表すべきか		97	2	0	1	○
5	藤沢で原発事故の災害対策計画を作成すべきか		95	2	1	1	○
6	浜岡原発の再開すべきでないと思うか		96	2	1	1	○
7	原発の今後	1) 直ちに止める	55				
		2) 5年以内に止める	34				
		3) 20年以内に止める	5				
		4) 今後も継続	0				
		無回答	6				○
8	今後、原発について国民投票が必要か		70	10	11	9	○
9	市民団体の原発学習会への参加は		83	1	12	4	○
10	問9で「はい」と答えた方	1) 講師・話題提供者になる	10	その他：①資料印刷・セットのお手伝い、テーブル起こしの手伝い。②内部告発の情報など集めて、話を始めたい。			
		2) 会派のエネルギー政策を語る	9				
		3) 共に学ぶ	61				○
		4) その他	4				
11	議員立法を目指す勉強会への参加は		59	6	27	10	
12	今後の重要課題 (3つを選択)	1) 計画停電の回避	7	その他：①とにかく今の事故を終息させてほしい。②生活を見直す事が大切。③原子力ムラの解体④国、東電、保安院、原子力安全委員会構成員の責任追及と被害者への賠償。⑤日本にこの不完全な安全無視の原子力発電装置を押し付けたアメリカとアメリカの企業から損害賠償を取れるよう日本政府は国際法廷に訴えよ。			○
		2) 事故原因の究明	41				○
		3) 規制体制の確率	28				○
		4) 安全基準見直しと総点検	20				○
		5) 古い炉から順次停止	26				○
		6) 脱原発依存から再生エネへ	72				○
		7) 廃炉決断とスケジュール作成	57				○
		8) 発送電分離	33				○
		9) その他	5				
13	関心のある問題 (いくつでも)	1) 事故原因解明	40	その他：①横須賀には浮かぶ原発がある。もしここで放射能漏れが起こったらどうなるか、市民に知らせ考える機会を！②原発はこの地球上から・・・なくす事・・・③東電の解体と倒産を前提とした賠償④細かい数値は理解できず、マスコミの解説に納得させられるしかない日常です。信用できる専門家の解説に期待します。⑤土壌の浄化など。			○
		2) 食品の放射能汚染	41				○
		3) 内部被爆	46				○
		4) 空気中線量の積算値	12				○
		5) 外部被爆	32				○
		6) 土壌・汚泥の線量	50				○
		7) エネルギー政策	56				○
		8) 原発事故収束の対策	37				○
		9) 市の災害対策計画策定	30				○
		10) 学習・討論会開催	27				○
		11) その他	7				

注①井上祐介市議から議員公開アンケート集計結果後に回答を頂きましたので、追加掲載致します。

前号で紹介した原発問題
議員公開アンケートに続いて、市民にも同じアンケートをおこないました。

(7/1～8/25実施) 82名
にご協力いただき、集計結果は表の通りです。その他の意見を表の中に紹介しました。

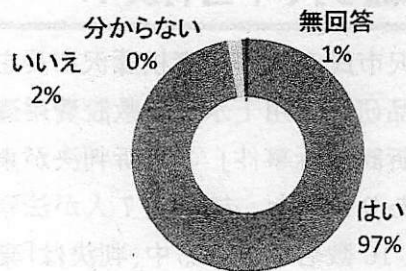
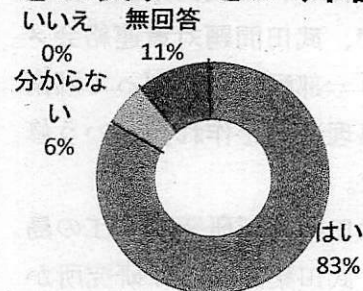
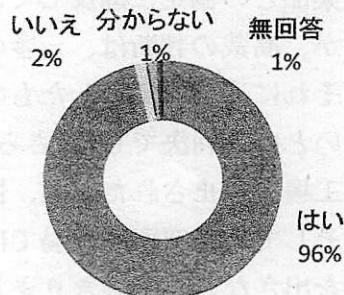
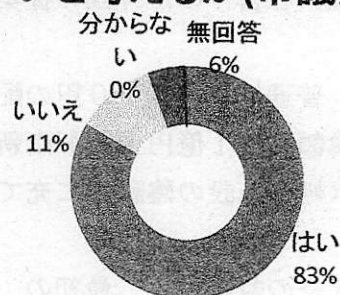
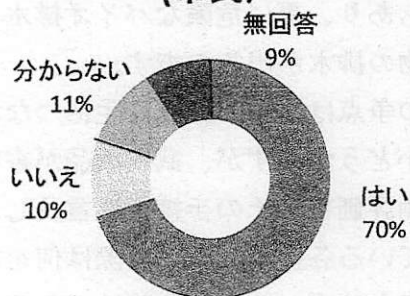
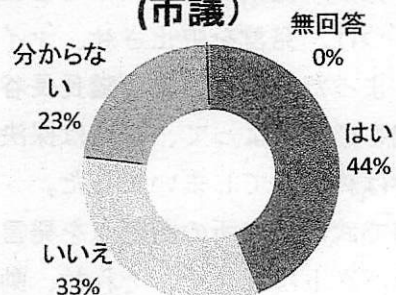
4項目 (①食品・農産物の測定公表すべきか、②浜岡原発の再開すべきでないか、③国民投票必要か、④原発の今後) について、市会議員と市民の結果を図示しました。

両者に明らかな違いがありました。③国民投票は市民70%必要に対し市議は必要が44%、④原発の後は市民の半数以上55%が直ちに止めるに対して市議は17%が直ちに止めるで市議の最も多いのは5年以内に止めるで39%でした。

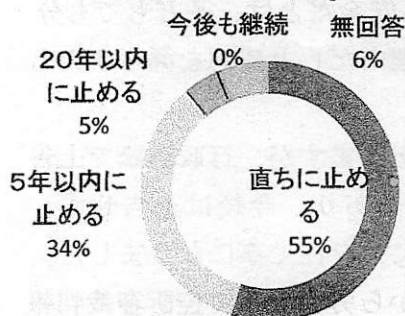
全般に市民の方が市議より厳しい審判でした。

今後の重要課題では1位が脱原発依存から再生エネルギーへのシフトで72%、関心のある問題では1位がエネルギー政策で55%の人が選びました。

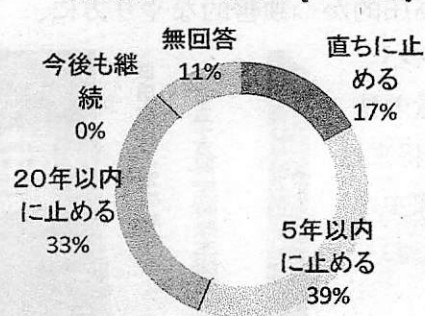
原発アンケート結果(市民と市会議員を比べると・・)

市内の食品・農産物の測定を
公表すべきか(市民)市内の食品・農産物の測定
を公表すべきか(市議)浜岡原発の再開すべきでない
と考えるか(市民)浜岡原発の再開すべきでない
と考えるか(市議)原発について国民投票必要か
(市民)原発について国民投票必要か
(市議)

原発の今後(市民)



原発の今後(市議)



(注意:市会議員は回答があった18名(50%)の方々の調査結果で、全員ではありません)

武田薬品株主総会出席顛末記

6月24日、大阪で行われた武田薬品の第135回定期株主総会で、武田問題対策連絡会メンバー2名が出席し「一部配当金を削って湘南バイオ研究所の排水処理装置を作れ」という修正動議を提案しました。

＜提案理由は＞ 武田薬品新研究所と江の島海岸は、目と鼻です。武田薬品バイオ研究所から排出される、大量の創薬・バイオ・遺伝子組み換え・動物実験等の危険な排水を、自ら排水処理施設ももたず、江の島海岸に排出するなどと言うことは許されないと言うのが今回の提案理由です。

＜動議の内容は＞ 普通株式1株90円の配当金を4円削って、総額約31億円を、湘南新研究所に未設置の排水処理施設の建設費に充てようというものです。

＜武田薬品長谷川社長の対応は＞ 最初の内は議長である武田薬品の長谷川社長も黙って聴いていたのですが、後半の企業の社会的責任の部分に入ると、突然「提案が長い」などと提案者に言いがかりつけ、発言を中止させ、マイクを取り上げてしまったのです。総会議長長谷川社長の不当な議事運営によって、動議は採決されないまま総会は終了してしまいました。

大勢の株主の前で武田研究所の問題点を発言出来たことのインパクトは大きく、それ故、動議の影響を怖れて発言を中止させたと思われます。それにしても、今回、経済同友会代表幹事の立場にある長谷川社長の、良識ある小株主の提案を拒絶し、高圧的かつ独善的なやり方に、リーディングカンパニーらしからぬ度量の狭さと、武田薬品の将来性に不安を感じた株主が多かったと思っております。

(武田問題対策連絡会
代表 小林麻須男 同幹事 木村直人)



「住民協定違反の武田排水受入れは

違法」は通らず、不当判決！

8月3日、藤沢市民9人が海老根藤沢市長を訴えた「武田薬品研究所用下水道管敷設費用違法支出差止住民訴訟控訴事件」の控訴判決が東京高等裁判所でありました。控訴人7人が法廷席に入り、傍聴人10数名が見守る中、判決は「棄却」でした。

争点の1つは藤沢市が、公害防止のため工程排水は公共下水道に受け入れないとしている住民協定及び武田薬品との協定に違反して、違法なのか否かですが、高裁の判断は、一審の判決をほぼ踏襲し、それに追加修正をしたもので、違法とはならないという判決でした。さらに(アリナミン)湘南工場が廃止された以上、協定が効力を失った、そして新研究所は工場ではないから、工程排水を出さないと言いきりました。これについては、協定書の条文内にも、たとえ持ち主が変わっても効力は失わないと継続性が強調してあり、また、新研究所にはボイラーや洗浄用冷却水もあり、更に危険なバイオ排水や大量の実験動物の排水が出るのです。

もうひとつの争点は排水が公害発生につながるもので違法かどうかですが、武田薬品が書いた環境影響予測評価書とその手続きに言及し、そこに書かれている各排水処理が実際は何を意味するかを調査もせず、公害の危険性があるとはいえないとしました。

この不当な判決に対して怒りを超えて、「研究所が工場ではないから安全だとは、子どもでも分かるばかばかしい理由だ」と感想を漏らす人もいました。

非常に不当ではありますが、行政訴訟で上告するのは難しい事もあり、今後は上告せず、運動を強める方向に力を注ぐ事になりました。9月17日(日)10時から労働会館で控訴審裁判報告会を開催する予定です。(原告 青柳節子)

原発について藤沢市長に要望書提出

藤沢市長 海老根靖典 様

2011. 7. 1

原発からの全面撤退についての要望

藤沢環境運動市民連絡会議

3・11の大地震・大津波の結果東京電力福島第一原子力発電所に生じている事態は、人類と原発は共存しえず、特に世界でも有数の地震国・津波国である日本は、できるだけ早期に原発から撤退すべきことを、強く指し示しております。

福島県、山形県、滋賀県知事、大阪市、南相馬市、白河市長は、原発からの全面撤退を表明し、滋賀県知事は関西電力社長と面談して、その旨申し入れております。

私たちは、藤沢市長が、市民が安全・安心な日常生活を送ることができるように、直ちに以下の行動をとられることを、強く要請するものです。

1. 藤沢市長として、日本が原発から全面撤退すべきことの、明確な意志表明を、記者会見によって行なうこと。
2. 東京電力社長に、原発からの全面撤退を要求すること。(可能ならば面談によって)
3. 神奈川県知事に、原発からの全面撤退の意志表明をすることを要請すること。
4. 総理大臣に、原発からの全面撤退の意志表明をすることを要請すること。

2011年7月11日までのご回答を要請します。 以上

上記の質問に対し、回答を本誌9月号に掲載予定でした。が回答がありませんでした。

藤沢市長の市民に対する態度は納得できませんが、再度回答をお願いし、次号には掲載できるよう願いたいと思います。

市役所・市民会館などはどうなるか

『新たな公共の視点による「市庁舎・市民会館等再整備に当たっての事業手法のあり方」に関する提言』が「藤沢市公共施設整備等事業手法検討委員会(委員長 根本祐二)」から報告がありました。

市民会館の再整備の課題はこの提言では、市民団体では稽古場や練習場が24時間利用できる施設づくりが求められ、新たな文化活動の拠点として特徴あるホール・リハーサルや稽古の出来る多機能型スペースとすることが望ましいとされ、適切な規模のホール(600席程度)と多機能施設(300席程度)が考えられるとしています。

そして、文化芸術施設は近隣の茅ヶ崎市民文化会館、鎌倉芸術館があり市民の欲求は充足できる程度の施設は整備されている、3市が相互利用することができ、大規模な式典等は市内の大学と連携を結び利用の方策を検討する必要があるとしています。

朝日町地区、鵠沼東地区、C-Xの3つ公有地活用案には3つのパターンが考えられさらに絞り込み検討する必要があるとしています。

①辻堂駅北口C-Xに市民会館、鵠沼東地区に新市庁舎、南図書館及びその他の公共施設を、朝日町の現新館を活用する ②辻堂C-Xに市民会館、鵠沼東地区に新市庁舎、朝日町の現新館と南図書館及びその他の公共施設を配置 ③辻堂C-Xに市民会館、鵠沼東地区に、南図書館及びその他の公共施設を配置、朝日町の現新館の活用と新市庁舎を配置、の3つのパターンです。

公民連携手法のPFIやVFMを導入することによりコスト削減を検討しています。(日比遥)

ECONET INFORMATION

脱原発パレードをgoいっしょに！

＝湘南パレード～未来へ歩こう 911＝

9月11日(日) 13:00 スタート～17:00

奥田公園から遊行寺までパレードします

脱原発の思いを胸に参加しましょう

パレード実行委員会(湘南天使力発電ほか)

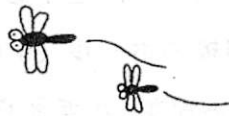
問合わせ 0466-82-1702 古屋

学習会 「地震とバイオ施設」

9月4日(日) 13:30 村岡公民館

記念講演 川本幸立氏(バイオハザード予防市民センター) 資料代 300円

連絡先 090-6317-5547



藤沢母親大会

9月18日(日) 10:20-14:30

市民会館第2展示ホール 資料代400円

講演「空気・水・だいじょうぶ？原発」

講師 野口邦和さん(理学博士核問題調査専門委員)

他に シンポ、フリートークキングなど

第37回藤沢母親大会実行委員会 ☎26-1980

署名にご協力を！！

「子どもたちを福島原発事故による被ばくから守るため集団疎開を認める決定を求める署名」

を9月8日までに福島地方裁判所と福島市に提出するものです。

神奈川県内にも多くの子どもや家族が避難していますが、自主避難したくてもできない家庭も多く不安な日々を送っています。学校ごと疎開する決断をすべく裁判を行っています。皆さまのご協力をお願いします。ネット署名もできます。

http://fukushima_sokai.blogspot.com/2011/06/blog_post.html

送付先 〒390-0861 松本市蟻ヶ崎 1-3-7

安藤法律事務所

藤沢エコネットから

脱原発署名を始めました。 前号に同封の用紙を差し替えましたので、市議会宛は今回同封の署名用紙を使い署名をお願いします。〆切りは10月末とします。どうかご協力下さい。

市民活動推進センターのレターケース(1-16)にお届け下さってもOKです。

・エコネット例会

9月中に放射能測定体験会を予定しています

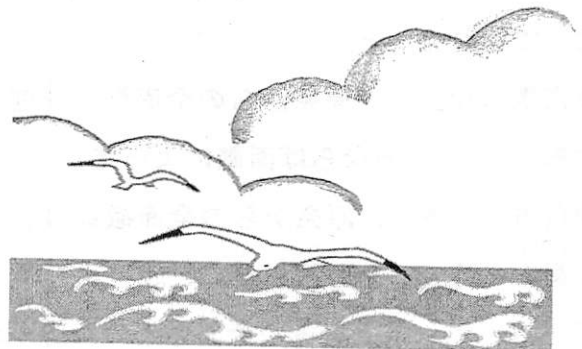
・市民アンケートにご協力ありがとうございました。

・会員募集→会費3000円

振込口座は→郵便局→00240-9-46501 藤沢エコネット

事務局会議 9月8日(木) 18:30～

市民活動推進センター



《編集後記》北茨城市をこの夏訪れる機会があった。野口雨情の生家は6メートルもの津波で浸水し、1階が破壊され、五浦海岸の名所六角堂は流されて土台のみになっていた。復旧はまだ端に着いたばかり。漁港は原発・放射能のため船は繋がれたまま、かもめだけが飛んでいた。

放射能の被害をなんとかせねば……。 (A)